

浜松市社会福祉事業団

重症心身障害児者の地域生活モデル事業実施計画書

団体名	浜松市社会福祉事業団
施設名	浜松市発達医療総合福祉センター
所在地	浜松市浜北区高菌775-1
事業担当者	
連絡先	
メールアドレス	

国庫補助所要額	4,275千円 (「別紙3 所要額内訳書」の額と一致)
事業実施予定期間	平成26年 4月 1日 から 平成 27年 3月 31日
事業の目的	重症心身障害児者とその家族が住み慣れた地域で安全に、安心して生活していくための医療、教育、福祉、行政等関係機関連携のコーディネーター配置および、関係機関との協同による総合的な地域支援整備体制の構築と支援の向上を目的とする。
事業内容及び手法	<p>当センターが位置する静岡県西部の在宅重症児者数は327名との調査報告があるが、これは身体障害者手帳1, 2級+療育手帳A取得者の数であり、療育手帳を持たない重症児者やこの定義に当てはまらない医療的ケアを受けている児者の数を含めると在宅支援を必要とする児者はさらに多いことが予想される。</p> <p>平成23年度より当センターを中心に浜松市をはじめとする行政および地域の関係機関を構成員として「静岡県西部の子どもの在宅支援ネットワーク」を組織しており、市内の訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、短期入所施設の把握を各会の中で行っている。</p>
① 重症心身障害児者の実態把握や地域資源の把握	
② 協議会の設置、コーディネーターする者の配置(人数や勤務体制等)や役割	<p>平成23年度より当センターを中心に「静岡県西部の子どもの在宅支援ネットワーク」を立ち上げている。今後成人期を含めて検討していく協議会へと移行させていく予定である。このネットワークは浜松市、医療機関、教育、福祉、当事者家族が参加しており、重症心身障害児者地域生活モデル協議会としての機能を果たすことが可能である。また当センターの相談支援専門員(社会福祉士)1名・保健師2名をコーディネーターとして位置づける。</p> <p>行政保健師、浜松市内でNICU病棟を保有する4か所の医療機関のMSW、静岡県重症心身障害児対応ケアマネジメント従事者養成研修を受講した相談支援専門員を中心にコーディネーター会議を開催する。コーディネーターはNICUや急性期病院から在宅移行の支援に携わり、在宅移行支援を行ううえで明らかになった課題を協議会へ提示、課題解決につなげる。また医療機関と連携し、在宅移行時の地域連携パスの作成に取り組む。</p>

	<p>協議会ではコーディネーターから提示されたものやすでに明らかになっている地域の課題について、解決策を探り、支援を構築するとともに施策へ提言していく。</p>
<p>③ 選んだテーマの事業内容及び手法</p> <p>テーマ</p> <p>重症児者や家族に対する支援</p>	<p>保健師、相談支援専門員（社会福祉士）、保育士が重症心身障害児の主たる育児・介護者である母親を対象とした育児支援グループを開催する。</p> <p>家族で外出する機会の少ない重症心身障害児と家族、きょうだいとそろって外出する機会を設け、家族同士の交流や専門機関の職員との交流を図る。</p> <p>特に重症心身障害児のきょうだいに関しては、学童期のきょうだい同士の交流の機会を設け、きょうだい会の活動へつなげる取り組みを行う。</p> <p>また重症児の育児にかかわる保護者には PSI を実施し、その結果をふまえた支援を行う。</p> <p>家族支援のほかには、特別支援学校など重症児が通う機関に対し理学療法士、作業療法士等を派遣し、機関における支援について助言・指導を行う。</p> <p>地域の方々への周知活動としては、重症心身障害などをテーマとした講演会を実施するほか、在宅医療にかかわる専門職向けの講演・研修会も実施する。</p> <p>地域の課題にかかる取り組みとしては、静岡県西部は南海トラフ巨大地震の被災地となるリスクが非常に高く、被災時の対策は急務である。重症心身障害児・者の全数把握と防災対策についての調査研究を進めていく。</p> <p>浜松市の面積は都市部から山間地域と広範囲を含んでおり、都市部と山間地域の医療・社会資源に格差が生じている。山間地域に限っては人材の定着がままならず、医療従事者の質の確保が難しくなっている。山間地域の行政担当者と協働し、医師・医療従事者を対象にした重症児への医療技術講習会を開催し、知識・技術の底上げを図る。</p>

重症心身障害児者の地域生活モデル事業所要額内訳書

1 国庫補助所要額

総支出予定額 (A)	寄付金その他の収入等 (B)	差し引き所要額 (A-B)	国庫補助所要額
4,636,038円	360,800円	4,275,238円	4,275千円

※「補助金所要額」は、「差し引き所要額」の千円未満の額を切り捨てた額を記入すること。

2 総支出予定額の内訳

区 分	支出予定額	積 算 内 訳
報 酬	20,000 円	監事報酬 @5,000 円×2 名×2 回 20,000 円
賃 金	590,400 円	事務員 @950 円×8 時間×週3 日×12 か月 273,600 円 保育士 @1,100 円×8 時間×週3 日×12 か月 316,800 円
共済費		
諸謝金	1,700,000 円	協議会構成員謝礼 @5,000 円×30 名×3 回 450,000 円 講演会講師謝礼 ① 虐待・倫理 @150,000 円×2 名 300,000 円 ② 福祉関係者 @150,000 円×1 名 150,000 円 ③ 当事者家族 @150,000 円×1 名 150,000 円 コーディネーター会議に関わる MSW・重症児コー ディネーターへの謝礼 @5,000 円×10 名×3 回 150,000 円 医療技術講習会の講師謝礼 @50,000 円×10 名 500,000 円
旅 費	925,980 円	・小児保健学会発表・参加 東京往復 @16,140 円×7 名 112,980 円 宿泊費 12,500 円×2 泊×7 名 175,000 円 ・子どもの虐待防止学術集会・世界会議参加 名古屋往復 @8,840 円×5 名 44,200 円 宿泊費 12,500 円×1 泊×5 名 62,500 円

		<ul style="list-style-type: none"> ・日本小児在宅医療支援研究会参加 大宮往復 @18,980円×5名 94,900円 宿泊費 12,500円×1泊×5名 62,500円 ・アメニティフォーラム 大津往復 @15,920円×5名 79,600円 宿泊費 12,500円×2泊×5名 125,000円 ・日本重症心身障害学会学術集会 京都往復 @8,860円×5名 44,300円 宿泊費 12,500円×2泊×5名 125,000円
需用費 消耗品費	327,078円	<u>PSI 育児支援アンケート用紙</u> @315円×100部 31,500円 PSI 育児支援アンケート手引書 @2,100円×3部 6,300円 親子育児支援グループ用エアレックスマット @68,250×4枚 273,000円 コピー用紙 A4用紙500枚×10冊 2,568円 封筒角2 1000枚 5,460円 封筒長3 1000枚 2,580円 関連書籍「実践小児在宅医療ナビ」5,670円
印刷製本費	500,000円	印刷製本費 500部 500,000円
役務費 通信運搬費	338,200円	切手 92円×200枚 18,400円 切手 205円×1560枚 319,800円
会議費	25,000円	講演会講師弁当代、お茶代等 5,000円×2回 事例検討会会議費 お茶代等 5,000円×3回
使用料及び賃借料	209,380円	講演会会議室貸借 @209,380円
合 計	4,636,038円	

(注) 寄付金その他の収入等を充当する経費(補助金を充当しない経費)には、下線を引くこと。

3 寄付金その他の収入等の内訳

区分	収入等予定額	積算内訳
団体の自己資金	360,800円	講演会講師謝礼 150,000円 講演会講師弁当代、お茶代等 5,000円×2回 10,000円 PSI育児支援アンケート用紙 @315円×100部 31,500円 日本重症心身障害学会学術集会 京都往復 @8,860円×5名 44,300円 宿泊費 12,500円×2泊×5名 125,000円
寄付金	0円	
参加費	0円	
その他	0円	
合計	360,800円	

事業実施スケジュール表

団体名：浜松市社会福祉事業団

	平成26年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容			第1回協議会 第1回コネクター会議		子どもの虐待防止学術集会・世界会議 日本小児在宅医療支援研究会 小児保健学会	
		NICU・急性期病院からの退院支援 特別支援学校等への訪問支援				
					日本重症心身障害学会学術集会 虐待・倫理に関する事例検討会 育児支援グループ 月1回程度	
	10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
事業実施内容	第2回協議会 第2回コネクター会議 家族交流会 家族向け、専門職向け研修会実施 NICU・急性期病院からの退院支援 特別支援学校等への訪問支援 虐待・倫理に関する事例検討会 育児支援グループ 月1回程度	講演会		講演会 子どもの虐待防止学術集会	第3回協議会 第3回コネクター会議 アメニティフォーラム 講演会	
						医師・医療従事者のための重症児医療技術講習会 虐待・倫理に関する事例検討会

(記入上の留意事項)
上記記載例を参考に、いつ・何をするか具体的なスケジュールを記載すること。

平成26年度 厚生労働省 重症心身障害児者の地域生活モデル事業 第1回ヒアリング

2014年9月1日

社会福祉法人 浜松市社会福祉事業団
浜松市発達医療総合福祉センター

事業概要について

- 協議会を年3回開催
- コーディネーター会議を年3回開催
- 地域移行連携パスを作成
- 主介護者を対象とした育児支援グループの開催(らっこちゃんグループ)
- 家族同士や医療福祉関係者との交流・研修会の開催(さんぽ会)
- 兄弟・姉妹同士の交流会の開催(きょうだい会)
- 保護者の育児ストレス調査(PSIを使用)
- 保護者の社会的資源利用状況調査
- 虐待・倫理に関する事例検討会の開催
- 講演会の開催(3回:福祉・倫理・当事者)
- 防災訓練として「障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ2014」の共催
- 医療機関の重症心身障害児診療実態調査
- 医療従事者向け小児在宅医療技術講習会の開催

協議会について

構成員

- ・ コーディネーター
- ・ 当事者団体
- ・ 医療関係
- ・ 行政関係
- ・ 福祉関係
- ・ 教育関係

創意工夫

- ・ 重症心身障害児者に関わる現場で活躍されている方々を中心に毎回40名前後で構成
- ・ 各団体の情報交換の場、ニーズ調査の場となり、その後、関係各位の努力でサービスの増加・向上(ショートステイ・通所・通園等)に結びついてきている
- ・ 年3回開催、テーマを毎回設定
- ・ 今年度第1回は6月27日に実施済み(在宅医療の現状)、第2回は10月24日、第3回は2月27日に予定

課題

- ・ 制度・システム的な問題(移動支援・教育関係等)に対して挙げた意見は、制度設計や政策的対応が必要であり、改善にすぐには結びつきにくい

コーディネーターについて

- ・ コーディネーター:相談支援専門員2名(20年以上の重症心身障害児者の相談実績を持つ社会福祉士1名、重心病棟での勤務経験を持つ保健師1名)を配置

業務

- ・ 重症心身障害児者の直接相談・支援業務(月60時間)
- ・ 地域の相談支援専門員やMSW、保健師との連携・サポート役(月30時間)
- ・ 本事業全体の取りまとめ役(週1, 2回ミーティング、1回2時間程度)
- ・ 年3回(6月17日、10月15日、2月19日)コーディネーター会議を開催し、今年度は地域移行連携パスの作成に取り組む(1回2時間および構成員との連絡調整を随時)

課題

- ・ 各病院間での温度差
- ・ 開業医との調整

コーディネーター会議 構成員

- ・ 相談支援専門員:静岡県が開催している「重症心身障害児(者)対応ケアマネジメント従事者養成研修」を受講し、実際、重症心身障害児者の計画相談を実施している地域の相談支援専門員
- ・ 医療ソーシャルワーカー: NICUを持つ浜松市内の4つの総合病院のMSW
- ・ 保健師:各区の担当保健師
- ・ 看護師:訪問看護ステーションの看護師、総合病院の小児専門看護師

協議会

- 第一回 6月27日(金) 在宅医療の現状
- 第二回 10月24日(金) テーマ未定
- 第三回 2月27日(金) テーマ未定

コーディネーター会議

- 第一回 6月17日(火) 実数把握
- 第二回 10月15日(水) 地域移行連携パス作成
- 第三回 2月19日(水) 地域移行連携パス完成

虐待倫理に関する事例検討会

- 第一回 8月8日(金) 医療ネグレクトケース検討会
- 第二回 2月13日(金) テーマ未定

講演会

- 12月または1月未定 福祉関係講演会(演者調整中)
- 2月7日(土) 倫理関係講演会(坪井節子さま)
- 2月28日(土) 当事者関係講演会(稲川淳二さま)

小児在宅医療技術講習会

- 1月24日(土)

NICU・急性期病院からの退院支援

- 随時

特別支援学校等への訪問支援

- 随時

家族支援

- 主たる介護者のための育児支援グループ:らっこちゃんグループ 8月~11月
- 保護者のストレス調査:PSIの実施および相談支援
- 兄弟・姉妹支援:きょうだい会 10月4日(土)
- 家族同士・医療福祉関係者との交流・研修:さんぽ会共催 10月25日(土)

防災対策

- 障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ2014共催 9月13, 14日

学会発表

- 日本小児神経学会
- 日本小児在宅医療支援研究会
- 日本重症心身障害学会

調査研究

- 質問紙調査(当事者、開業医)
- 地域移行連携パス作成

小児在宅医療技術講習会

平成27年1月24日(土) 14時～17時 浜松医師会館

- 開業小児科医が行う小児在宅医療の実際
さいわいこどもクリニック 宮田章子先生
- 小児在宅呼吸管理の実際
聖隷浜松病院新生児科
- 小児在宅栄養管理の実際
浜松医科大学小児科
- 小児リハビリテーションの実際
げんきこどもクリニック 村山恵子先生

特色

- コーディネーター会議の実施
- 地域移行連携パス作成
- 3年ぶりの質問紙調査:現状把握、変化の確認
- 家族・兄弟姉妹支援:きょうだい会、さんぽ会、らっこちゃんグループ
- 一般の方への普及啓発活動(講演会)
- 虐待予防の視点:保護者ストレス調査(PSI)、相談支援専門員・保健師との虐待事例検討会
- 防災対策の視点:障がいを持つ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ2014共催